2023.9
vol.132

国際交流活動ニュース

MACROCOSM

CONTENTS

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長挨拶　2
事業報告（国際理解教育支援プログラム）　3
事業報告（国際交流リーダー養成セミナー）　7
事業報告（イスラームを知ろう！）　8
内閣府の実施する青年国際交流事業への協力　9
ブロックイベント及び青少年国際交流全国フォーラム　10

一般財団法人 青少年国際交流推進センター

一般財団法人青少年国際交流推進センター理事長挨拶

昨年度は内閣府の青年国際交流事業において、久しぶりに対面交流が復活し、「国際社会青年育成」事業や「世界青年の船」事業では外国青年を招へいしてface-to-faceで心が響き合う交流をすることができ、大きな成果を挙げることができました。事後活動の関係でも、幾つかのブロックで現地でのイベントが開催され、参加者が対面交流の良さを肌で実感できた年であったと思います。

当推進センターの自主事業については、本マクロコズムで詳しく紹介していますが、毎年継続実施している「国際理解教育支援プログラム」を熱意ある既参加外国青年らの協力を得て幾つかの小中学校で開催し好評を得ることができたほか、多様性への理解を深める一助として３年前に開始した「イスラームを知るセミナー」を体験型交流を含め３回にわたり開催することができました。また、「世界青年の船」事業既参加青年によるSDGs-SWYの協力を得てSDGsをテーマとした「国際交流指導者セミナー」を開催し、地球的規模の課題の解決のために自分が住んでいる地域で何ができるかというグローカルリーダーに必要な学びを得ることができました。今年度も引き続きこれらの自主事業を継続していく予定です。

今年の５月に新型コロナが５類扱いになり、３年にわたるコロナ禍の長いトンネルを抜け、インバウンドが急速に回復する中で、国際交流事業も本来の活気を取り戻すことが期待されています。昨年度は対面交流が復活しましたが、今年度は船の事業とホームステイが復活します。「世界青年の船」事業では、４年ぶりに船事業が復活し国内各地を寄港しますが、昨年の有識者会議の報告を踏まえ地域実践活動というチャレンジングな取り組みが予定されています。また、海外からの参加青年に大変評価の高いホームステイプログラムは「日本・韓国青年親善交流」事業と「東南アジア青年の船」事業で復活し、外国参加青年に日本各地で忘れられない経験をしてもらえるのではないでしょうか。IYEOの全国大会も４年ぶりに現地で開催されます。いずれの事業もオンラインでは味わえなかった交流の良さを再認識することになると思いますが、推進センターとしては、今まで培った経験や信頼関係という無形の財産を生かしてプログラムに付加価値をつけ、参加青年がライフチェンジングとなるような素晴らしい経験ができるよう最善の努力をしていきたいと思っています。

私が初めて管理官を経験した第１１回「世界青年の船」事業のテーマが「Celebrating Diversity」でした。最近、このフレーズを推進センターのHPに掲げましたが、「多様性」という価値を大切にしながら、今後も若い人たちの成長とより良い社会づくりに貢献していきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

理事長　駒形 健一

写真や民族衣装を使用して中国文化を教える講師（品川区立清水台小学校）

事業報告

国際理解教育支援プログラム

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、2004年度より、日本の教育機関や地域施設等に内閣府青年国際交流事業の参加経験がある在日外国青年等を講師として派遣する「国際理解教育支援プログラム」を実施してきました。国際理解教育に対する熱意を持つ人材を派遣して、国際理解の推進に資することを目的としています。

各機関で実施したいプログラムの内容を交流事業の経験豊富なコーディネーターが丁寧に聞き取り、受講者に最大の学びを提供できるよう、外国人講師の選定や、個々の受講者に合わせた教材や資料を準備しています。過去に本プログラムを実施した機関からのリピート率も高く、これまで88回実施しました。

本号では、2022年10月から2023年3月までに行われたプログラムについて報告します。

品川区立清水台小学校

日付	2023年3月10日
担当者	宮原真佐代　副校長
対　象	4、5年生（60名）
テーマ	外国の人々からスポーツや文化を通して交流しよう
プログラム	【各クラス】 1. 外国の紹介（位置、世界遺産、食べ物、民族衣装など） 2. 外国の遊び等を児童と一緒に行う
派遣者	孫佳茹（中国） 大久保正美（日本）オーストラリア紹介

クイズを交えてオーストラリア文化を教える講師

茨城県立並木中等教育学校

日付	2022年10月15日
担当者	冨山正美 先生
対　象	5年生（高校2年生、約150名）
テーマ	Journey　～ディスカッション交流～
プログラム	1. イントロダクション 2. 八つのグループに分かれて自己紹介 3. グループ・ディスカッション（八つのディスカッション・トピックに沿った各国事情を生徒が外国人ディスカッション・パートナーに質問した後、生徒から日本事情をプレゼンテーションする） 4. 外国人から生徒へフィードバック
派遣者	ファシリテーター：芳賀朝子さん ディスカッション・パートナー： Ms. Camila Gonzalez Lopez（スペイン） Ms. Sharmin Sumaiya（バングラデシュ） Mr. Ahmed Boighdady（エジプト） Mr. Chamal Randunu Amaraweera（スリランカ） Mr. Alexander Hasan（インドネシア） Mr. Keneth Asiimwe（ウガンダ） Mr. Michael Pfeffer（アメリカ） Mr. Felipe Salgado de Souza（ブラジル）

生徒の今の気持ちを手で表現する

生徒がテーマに沿って日本の状況のプレゼンをする

生徒の感想

茨城県立並木中等教育学校　5年A組　勢子（せいし）　流叶（るか）

英語を今以上に話せるようになること、日本国内のことのみでなく世界中の取り組みに目を向けること、様々な文化を尊重しあうこと。現代のグローバル化する社会の一員である私たちに求められる、そういったことに積極的に向き合うための最も効果的な方法が、実際に様々な国の方々とコミュニケーションすることだと思います。今回私たちが参加した国際交流ディスカッションでは、世界8か国（スペイン、バングラデシュ、エジプト、スリランカ、インドネシア、ウガンダ、アメリカ、ブラジル）出身のディスカッション・パートナーが並木中等教育学校を訪れ、教育、環境という二つのトピックについて、お互いの国の実情やその背景を自分自身の考えも含めながら対話を行いました。

私は教育のトピックでディスカッションを行ったのですが、自分たちが普段受けている英語教育について相手に説明することを通して自国の活動を再確認するとともに、他国では日本での教育法と様々な差異があることを知り、非常に興味深く、驚かされました。ディスカッション中は大いに会話が弾み、割り当てられた55分間がとても短く感じるほど内容の濃いものとなりました。教育という幅広いジャンルについて国際的な視点で見つめ、それについて現況や改善点を考えるという機会と、さらにそれを海外の方々と共有できるという今回の交流は私たちにとって大変貴重な経験になったと思います。

私たちの学年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、研修旅行として訪れる予定であった国のいずれにも行くことができず、海外の文化や環境に直接触れられる機会を持つことができませんでした。そのような中で実際に海外の方と会い、同じテーマについてコミュニケーションし、お互いの考えを伝え合うということは多くの人にとって刺激となり、世界に目を向け、国際協力や教育や環境について興味を持つきっかけになったと思います。

私は元々言語文化に興味があり、最近ではそれに伴って国際文化への関心を持つようになりました。本は多くのことを教えてくれますが、文字で書かれた資料や文献を見るだけでは完全には理解できない事柄も多く、このような交流を通して世界の人々の背景を実感することで更に理解、関心を深めることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。今回の貴重な国際交流の経験をいかし、これからも自己研鑽を積んでいきたいと思います。

中野区立江古田小学校

日付	2022年11月7日
担当者	黒川晃文　先生
対　象	6年生（70名）
テーマ	互いの学校生活や地域のことを紹介しよう
プログラム	【各クラス】 1．小グループに分かれて、外国人講師と児童との自己紹介 2．児童から地域（中野や江古田）の特色、江古田小学校の生活、日本文化等の紹介 3．外国人講師から児童へフィードバック 【全クラス集合】 1．外国人講師の国の紹介 2．質疑応答
派遣者	Mr. Ahmed Boighdady（エジプト） Ms. Sharmin Sumaiya（バングラデシュ）

バングラデシュについて説明を聞く児童たち

エジプト人講師と交流する児童たち

担当の先生の感想

中野区立江古田小学校　外国語専科　黒川 晃文　先生

外国語科の学習の時間では、今まで習った表現を使って外国の方と交流し、外国の文化に触れる授業を実施しました。コロナ禍で子供たちは様々な人とコミュニケーションをとる機会が少なくなりました。自分の考えや気持ちを外国の方に伝える活動ができればと思い、二人の先生に来ていただきました。

事前学習として、どんなことを伝えたいかをグループで話し合い、中野区や自分たちの住む地域のよさ、日本の伝統的な遊びなどのテーマに沿ってプレゼンテーションを作成しました。

当日はグループごとに先生方と交流し、子供たちがすすんで自分のテーマについて伝える姿が見られました。最初は緊張していましたが、コミュニケーションをとりながら少しずつ慣れていきました。ただ伝えるのではなく、Do you like/know...?、What ... do you like?など、先生方にも積極的に尋ね、コミュニケーションをとろうとする姿も見られました。日本の伝統的な遊びを紹介するために実際にけん玉の技を見せたり、中野区の地図や写真を見せて地元のお店を紹介したりしていました。子供たちからは、「自分たちが言いたかったことをしっかり伝えることができて、がんばってよかった」「自分が好きなものを伝えられて、うれしかった」「今まで習った表現やジェスチャーなどの大切さに気付いた」などの感想があり、今回の活動が子供たちにとって、今までの学習を応用してコミュニケーションに取り組む、とても貴重な機会となったことが分かりました。

二人の先生は、エジプトとバングラデシュの文化、学校生活や地理などについてプレゼンテーションソフトを使って紹介してくださいました。子供たちは日本と違う食べ物や文字、観光名所など、新しい発見があり、「国ごとに文化や魅力があって、話を聞くのが楽しかった」「文化が違うことは面白い」と感想にも書いていました。

予測困難な時代の中、様々な人と協力し、関わりを深めることはとても大切なことです。今回の交流をきっかけに、ぜひ子供たちには自分の視野を広げてほしいと思います。様々な文化や考え方を受け止めることで、相手への理解が深まります。子供たちには身の回りの人たちはもちろん、これからまだ見ぬ人たちとも積極的にコミュニケーションをとれる力を付けていってほしいと願っています。

東京都立立川国際中等教育学校附属小学校

日付	2023年1月20日
担当者	高橋陽子　先生
対　象	１年生（70名）
テーマ	多言語教育「マルチリンガルスタディⅠ」（出合う）
プログラム	【各クラス】 1．外国人講師の国の紹介（位置、世界遺産、食べ物、民族衣装など） 2．外国人講師の国の遊び等を児童と一緒に行う
派遣者	Mr. Jun Collado(フィリピン)

フィリピンの食文化について説明を聞く児童たち

担当の先生の感想

東京都立立川国際中等教育学校附属小学校　高橋 陽子　先生

本校は、令和４年４月に開校した、全国初の公立小中高一貫教育校の小学校です。「世界で活躍し貢献できる人間を育成する」ことを教育理念とし、「１．探究的な学び」「２．語学力とそれを支える言語能力」「３．学びを実践する学校行事」の三つを特色に掲げています。特色２では、第１学年から週４時間の英語の授業と、多言語教育「マルチリンガルスタディⅠ（出合う）」を実施しています。多言語教育「マルチリンガルスタディⅠ（出合う）」では、多摩地域の大学と連携して、６言語（韓国語、中国語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、アラビア語）を月ごとに分けて学習しています。更に、年１時間、その他の言語にふれあう機会を創出することとし、一般財団法人青少年国際交流推進センターにご協力いただき、今年度は１年生70名がフィリピンの生活や文化について学習しました。

授業当日には、講師の先生がバロン（男性の民族衣装で正装用シャツ）を着用していらっしゃり、バロンがパイナップルの葉からできていることを知ると、児童は驚くとともに「パイナップルのにおいがするのかな」と興味津々でした。

最初に、講師の先生のプレゼンテーションでフィリピンの概要を学習しました。児童は、トゥバッタハ岩礁自然公園等の世界遺産の写真を見て「きれいだな。行きたいな」と感想を述べたり、アドボ（代表的な家庭料理である煮込み）やレチョン（イベントに欠かせない郷土料理である豚の丸焼き）、ハロハロ（代表的なデザートであるかき氷）等の写真を見て「おいしそう！食べたい！」と歓声を上げたりしていました。

伝統的な遊び「パティンタロ」を体験する

次に、伝統的な遊びの一つである「パティンタロ」を体験しました。体育で学習中の鬼遊びと似ていたようで、児童は講師の先生にルールを教わりながらとても楽しそうに活動していました。遊び足りなかったようで、授業後には「昼休みにまた遊びたい！」と話していました。

今年度は、フィリピン語と英語が公用語になっているフィリピンの生活や文化について学習することで、国際理解だけでなく、英語を学習する意義を知る機会となりました。今後も、青少年国際交流推進センターに相談させていただきながら、地域やテーマ等を決めて実施し、世界で活躍し貢献できる人材となるための素地を育成していきたいと思います。

事業報告

国際交流リーダー養成セミナー

2023年3月4日、慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特任助教の高木超氏と、SDGs-SWY共同代表・慶應義塾大学SFC研究所上席所員の和田恵氏を講師にお迎えし、「“今こそAct Locally” 2023年はSDGs目標達成の中間点～7年間を振り返り気づくこと、これからに向けた取組み：課題解決は地域にあり～」をオンラインにて開催し、8名が参加しました。

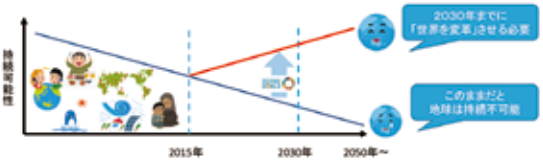
最初に和田氏からデータをもとに世界と日本のSDGs達成状況や課題を説明する講義がありました。その中で、日本は諸外国に比べてSDGsの認知度こそ高いものの、ほとんどの日本人がSDGsについて詳しく説明できるほどの知識がないという実態や、ジェンダーや環境面でのSDGs達成度が諸外国（特に先進国）と比べて低いという状況が浮き彫りになりました。後半の7年間で日本としてSDGs達成に向けて何をすべきかを改めて考えることができました。

高木氏の講義では、SDGsは目標ではあるが、同時に問いとして捉えることこそが、課題解決に向けて必要な意識であることを理解しました。その上で、SDGsそれぞれのゴールは単独ではなく相互にリンクしていること（インターリンケージ）や、それによって相乗効果を生み出すように働きかけることが大切であるという説明がありました。事例として、鹿児島県大崎町（ごみの徹底的な分別とごみの減量を達成した大崎モデルとインドネシアへの大崎モデル輸出）や石川県金沢市（SDGsを達成するために互いの強みをいかすマルチステークホルダーの考え方やSDGsに興味のない人を取り込むSDGsカフェ）の取組みついて共有され、日本の好事例を知ることで、これからの関わり方へのヒントを得ることができました。

パネルディスカッションでは、SDGs専門家のお二人の現在に、国際交流事業がどのような影響を与えたか、また、その国際交流事業が持つ可能性についてトークが繰り広げられました。国際交流を通して、他人事ではなく自分事として考える視野を持てること、様々な人の考えに触れ、築いてきた人脈がお二人に大きな影響を及ぼしていることが語られました。「国際交流を通じた発見やつながりによって、SDGsをともに考え、達成に向けたアクション（共創）ができる」と、参加者へ向けたメッセージが発信されました。

講師のお二人とセミナー参加者

そもそもSDGsは何を目指しているのか?



日本のSDGsの進捗度はどれくらいでしょう?

達成率は80%　世界では19位（163カ国中）

イスラームを知ろう！

セミナー開催報告

世界人口の約4人に1人がイスラームを信仰していますが、日本ではムスリム（イスラーム教徒）と接する機会が限られているため、イスラームについてあまり知らなかったり、偏った見方をしたりしている人がいるかもしれません。日本でも「多様性（ダイバーシティ＆インクルージョン）」という言葉を耳にする機会が増えてきましたが、多様な宗教を受け入れる考え方や姿勢が浸透していくのはこれからだと思われます。

様々なテーマを通してイスラームを楽しく学び、正しく理解することが、多様な人・考え・価値観を理解する一助となると考え、（一財）青少年国際交流推進センターは、2020年から「イスラームを知ろう！」と題するセミナーやハラールフード料理教室を、計10回実施してきました。参加者は延べ330名を超えています。

新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みながら、2022年度はオンライン、現地参加、及びハイブリッド（オンラインと現地参加）のセミナーを計３回開催しました。回を重ねるごとに、イスラームについてある程度知っているけれど、もっと学びたい、もっと理解を深めたいという方が増えています。

今後は国内外のスタディツアー等も開催し、多様性を自然に受け入れられる心を養う機会を創出していきます。

となりのムスリム：地域と生きるマスジド大塚「モスク見学/フードドライブ体験」の参加者の皆さん

■2022年度セミナー開催実績

日付	内容	参加人数
4月10日	～断食は“入り口”なだけ。人生をリセットする「ラマダーン」～ 【オンライン＆現地参加（東京都）】 スピーカー：ハムダなおこ氏（第14回「東南アジア青年の船」事業参加青年）	51名 （オンライン参加41名、現地参加10名）
7月23日	～となりのムスリム：地域と生きる マスジド大塚「モスク見学/フードドライブ体験」～【現地参加（東京都）】 スピーカー：日本イスラーム文化センター事務局長 クレイシ・ハールーン（Haroon Qureshi）氏	10名
9月11日	～服装からみる中東・湾岸地域の女性～【オンライン】 スピーカー：後藤真実氏（第24回「世界青年の船」事業参加青年）	20名

内閣府の実施する青年国際交流事業への協力

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、内閣府との契約により、令和4年度は以下の五つの交流事業及び青少年国際交流事業の活動充実強化に関する支援業務を実施しました。

1. 国際社会青年育成事業

参加国・人数	日本（12名）、エストニア、ドイツ、ドミニカ共和国、メキシコ（各国8名、団長1名含む）
日程	オンライン事前研修：10月22日、29日　オンライン交流：11月19日、20日 対面交流プログラム：12月7日～16日　事後研修：12月16日 オンライン事業報告会：令和5年2月11日
交流テーマ	ITの活用（欧州地域）、災害対策（中南米地域）

2. 日本・中国青年親善交流事業（オンライン交流）

参加国・人数	日本（25名）、中国（25名）
日程	事前研修：10月2日、9日　オンライン交流「日中代表ユースフォーラム」：10月30日 事後研修：11月6日　オンライン事業報告会：令和5年2月4日
意見交換会テーマ	日中国交正常化50周年

3. 日本・韓国青年親善交流事業（オンライン交流）

参加国・人数	日本（11名）、韓国（12名）
日程	事前研修：10月15日、22日 オンライン交流「日韓青年親善交流のつどいオンライン」：11月12日、13日、26日 事後研修：12月3日　オンライン事業報告会：令和5年2月4日
ディスカッションテーマ	日本と韓国両国の未来を担う青年ができること

4.「東南アジア青年の船」青年会議（オンライン交流）

参加国・人数	日本（27名）、ASEAN10か国の青年（240名）
日程	事前研修：10月23日、30日 「東南アジア青年の船」青年会議：11月13日、20日、27日、12月4日、11日、18日 事後研修：令和5年1月8日　事業報告会：令和5年2月5日
テーマ	日本ASEAN友好協力50周年を迎える新たな協力の時代に青年ができること

5.「世界青年の船」事業（ハイブリッド）

参加国・人数	日本（53名、NL、SNL含む）、オーストラリア、バーレーン、ブラジル、カナダ、メキシコ、オマーン、ペルー、ポーランド、南アフリカ共和国、スウェーデン（90名、NL含む）
日程	事前研修：9月16日～20日 オンライン交流Ⅰ：11月26日、12月3日、10日　オンライン交流Ⅱ：11月27日、12月4日、11日 仮想空間における交流：11月19日～12月28日　対面交流：令和5年2月7日～20日 事後研修：令和5年2月21日～22日
共通テーマ	SDGs（Sustainable Development Goals、持続可能な開発目標）

「ブロックイベント」及び「青少年国際交流全国フォーラム」 実施報告

◆ 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい（ブロックイベント）

このイベントは、全国の8ブロックで、内閣府及び地方公共団体が行う青少年国際交流事業の既参加青年、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動に関する情報交換や地域、職域の特色をいかした事後活動について意見交換を行うもので、令和4年度より第1部を内閣府、IYEO共催、第2部をIYEOと（一財）青少年国際交流推進センターが共催して実施する2部制の形式で実施することになりました。そうすることで、第1部では参加費無料を基本として広く参加者を募る企画とし、第2部では、より内容を掘り下げたり、参加者同士の懇親を図ったりする工夫ができる企画としました。令和4年度については、7ブロックの主催県IYEOがブロックイベント第2部をセンターと共催しました。

ブロック	開催県	日付	開催方法	第2部の内容
北海道・東北	北海道	11月6日	ハイブリッド	現地体験「厚真町を巡ろう！」 (北海道胆振東部地震被災地ツアー＆原木しいたけ収穫体験)
関東	栃木県	11月26日	ハイブリッド	グループトーク（テーマ：「共生実現のためのアクションを考えよう！」3名の講師による講演）
北信越	富山県	10月3日	ハイブリッド	ヘルジアン・ウッドに行こう！ (美と健康をテーマとした複合施設見学とワークショップ)
東海	愛知県	令和5年 3月12日	ハイブリッド	「東海チャレンジャーズピッチ」 (リレーピッチ方式による10～30代の若手の体験談発表)
中国	岡山県	9月4日	ハイブリッド	多様性を自分ごととして捉えるグループディスカッション (「行動宣言」を策定)
近畿	奈良県	令和5年 2月19日	オンライン	第1部のみ
四国	愛媛県	8月20日	オンライン	パネルディスカッション「国際交流の経験を地域にどういかすか ～地域から発信するために、私たちにできること～」
九州 (全国大会)	鹿児島県	12月3日	オンライン	スーパーパワー・ワークショップ (テーマ　「自分」の"ワクワク"と強みを知ろう」)

◆第29回青少年国際交流全国フォーラムの開催

12月3日、全国から内閣府及び地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青年等103名がオンラインにて集い、各地域における事後活動の推進状況を報告しました。既参加青年等の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行っています。なお、この大会は日本青年国際交流機構第38回全国大会及び青少年国際交流事業事後活動推進大会と併せて開催されました。

今月の表紙

国際社会青年育成事業でITの活用についてディスカッションする日本、エストニア、ドイツの青年たち。オンラインでの交流と対面での交流を組み合わせたハイブリッド型で実施。事前にオンラインで交流していたため、外国参加青年と日本で顔を合わせた時、「初めて会った気がしない」と感じ、会話がいっそう弾んだ。

MACROCOSM 9月号 vol.132

2023年9月30日発行
編　集　マクロコスム編集委員会
発　行　一般財団法人 青少年国際交流推進センター
〒103-0013　東京都中央区日本橋人形町
2-35-14 東京海苔会館6階
TEL: 03-3249-0767　FAX: 03-3639-2436
e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp
URL: http://www.centerye.org/ (CENTERYE)
https://www.iyeo.or.jp/ (IYEO)
編集協力　日本青年国際交流機構（IYEO）
定　価　215円 本体195円
印刷所　株式会社シナノパブリッシングプレス
TEL: 03-5911-3355　FAX: 03-5911-3356

POWER TO JAPAN!

地域の元気は、日本の元気。日本の元気は、世界の元気。
笑顔が飛び交う社会をつくりたい。
わたしたちは日本を元気にするために、そのあふれる魅力を磨き、繋ぎます。

東武トップツアーズ
官公庁事業部
〒108-0075　東京都品川区港南一丁目 8 番 15 号　W ビル 19 階　TEL 050-9014-8423

NIPPON MARU

思いは、大海原の彼方へ。

憧れていたあの島へ、小説で読んだあの渚へ、思い出のあの港街へ。
お客様の思いを乗せて、美しい海へと旅をする、にっぽん丸のクルーズ。
スタッフの笑顔と、おいしいお料理、エンターテイメントでおもてなしします。

撮影：三好 和義

○詳しいパンフレットをご用意しています。最寄りの旅行会社または、下記へお問い合わせください。　※営業日・営業時間は変更・短縮、もしくは延長される場合があります。

商船三井クルーズ　クルーズデスク 10:30～15:30（土・日・祝はお休みです）　0120-791-211　〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-18 ヒューリック虎ノ門ビル 11 階　https://www.nipponmaru.jp

マクロコズム　2023年9月号　通巻一三二号季刊発行　定価二一五円　本体一九五円　編集協力：日本青年国際交流機構